

～毎月10日は人権を考える日～

「同じにすることで不平等に？」

配布物を配るときに、すべての方に同じ数ずつ、同じ量ずつ配布することは、当たり前のことだと思えます。隣の方には用紙5枚なのに自分は10枚だったら、おかしいと思えますよね。どうしてなのかを尋ねると思えます。何か理由があるのかもしれないと、想像をめぐらすと思えます。私たちには、数を同じにすることが当たり前だという観念があります。しかし、よく考えてみると「おかしいんじゃないの」と思うこともあります。

小学1年と中学1年の子に、同じパンを1個ずつ平等にあげます。1個ずつ渡すことで平等です。そのパンを食べて同じように空腹が満たされるかということ、そうではありません。小中学校の給食のパンは、大きさに分けられています。小学校低学年用、高学年用、中学生用です。同じ分量では、小学校低学年は食べきれないし、高学年は足りないと感じる子が多いからです。個人によっても違います。同じクラスの子であっても、食べられる子と食べきれない子がいます。こういうことにも、私たちは気を配っていく必要があると思えます。その人の状況によって、またその時の条件によって、どうすることがすべての人にとって同じになるかを考えなくてははいけません。



低学年用



高学年用

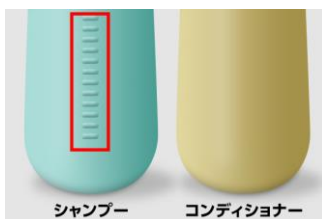


中学生用

同じように、数を同じにしておけば平等になるかということ、そうではない場合が多々あります。例えば、トイレの数です。いわゆる男性用と女性用を同じ数にすると、女性用が混みます。数を同じにしてしまうと、女性用が混むのは当然かもしれません。これで、平等といえるのでしょうか。どのくらいの比率にすればいいのかは、研究者にお任せしましょう。

最近、多目的トイレがたくさんできました。どうしてでしょうか。赤ちゃんをつれた方、車いすの方が不自由なく使えるようにするためですよね。今まで気づかなかったことに気が付きましたからです。小さい子どもを連れての方が使えるトイレが必要だと気付いたからです。多くの方が学習をつんだから気づくことができたのです。普段は多目的トイレを使用しなくても、けがをして松葉杖をついているときには、多目的トイレがあることで助かります。LGBTQの方々にも使いやすいトイレでなくてはなりません。誰もが安心して暮らせる西条市にしていかなければなりません。

数を同じにするよりも、どうすることがより多くの人にとって、さらにはすべての人にとって使いやすいのか、便利なのかを考えていく必要があります。このようにして生まれてきたのがユニバーサルデザインです。ユニバーサルデザインあふれる西条市にしていきましょう。そのために、一人一人が考えていきましょう。



凹凸があるので、
触るだけでシャ
ンプーが分かります。

